

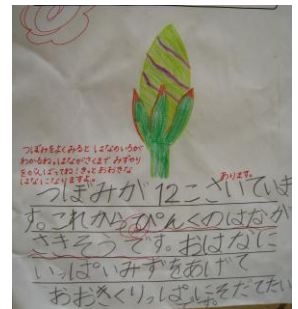
親しみや知的好奇心を、そして、探究心を

副校長 太田 徳子

先日、日本女子大学、児童学科で小学校教員免許取得を目指す3年生の生活科の授業に講師として参加してきました。

今年度は、植物教材を主に取り上げました。1年生ではアサガオです。学生たちも経験があるのでよく知っていますが、つもりだけです。実際に指導するには知っておかなくてはならないことがたくさんあります。「間引き」をしないとどうなるか考えさせたときに、なかなか発言が得られなかったのですが、「たくさんありすぎると栄養が行き届かないから大きな花は咲かないと思う。」と、話してくれた学生がいました。アサガオのつるの巻き付き方はいつも同じ巻き付きなのですが、知っていますか。実際の小学校授業ではこんな質問はしません。つるの様子をよく観察させ、巻き付き方に興味をもたせて気付かせていくのですが、大学に実物はないので、写真を見ながら自分で観察をさせました。小学校1年生の授業でも、このように考えさせることが思考力や表現力を付けることであることを指導しました。そして、何となく育てた経験の中の知識では指導できないことを理解してもらいました。

大学3年生ともなると学生ボランティアで小学校へ行っている方もいます。本校1年生女兒のカードを見せたとき「わあ、きれいな文字！」と悲鳴にも似た声があがりました。文字が上手だから持って行ったわけではありません。カードの内容やアサガオの絵を見せたかったのです。ここで本校の文字指導の在り方のよさに触れました。



次は、作物を育てたらどこまでも授業を続けるということです。まず、ポップコーンを作りです。タネの観察から苗作り、畑への植え付け、雑草取り、収穫、そして、乾燥から実際に作って食べるまで5か月に及ぶプロジェクトです。収穫は大変で保護者の方のお手伝いがないと難しいです。そして、コンロを使って作るときも同じです。サトイモも植えています。4月初から暮れ間際まで8か月に及びます。生活科の植物・作物については、長い期間見守り、収穫まで長く続く学習なのです。本校でも2年生が取り組んでいますので、2年生保護者の方はお楽しみにしてください。

生活科は、動植物に対しては、ただ眺めて観察するだけでなく、手で触ったり、抱いたり、水や肥料をやったりというようにして親しく接することにより、心がひかれ、親しみや知的好奇心を、そして、探究心をもち、驚いたり喜んだりする中から気付きが生まれるようになることを期待しています。一つ一つの気付きから関連付けられた気付きへと質的に高まって行くように指導していきます。同時に、児童が、対象となるものに対する振る舞いも洗練されてきます。主体的に活動できるようにすることは、自立への基礎を養うことです。

夏季休業中の生活や学習について

サマースクールは別紙でお知らせが出ますのでお読みになり、参加希望をご提出ください。また、水泳指導についても提出がないと出席ができませんのでお気を付けください。

各学年の課題もありますが、夏休みは、普段できない体験ができる貴重な休みです。夜中に起きて朝日が昇るまで星の観察をした。親元を離れ、子どもキャンプに参加した。兄弟姉妹で祖父母の家に泊まった。虫取りをした。毎日校庭で遊んだ。この夏にしかできない経験をさせてあげられるようご配慮いただけたらと存じます。

9月には、一回り大きくなった子どもたちが登校してくることを楽しみに待っています。けがや事故に遭わないよう、また事故を起こさないようお過ごしください。

9月1日元気な顔で登校しましょう。待っています。